

混合交通を観察する

# DOCUMENT EYE

144

## 駐車場で親子連れの行動を観察する 駐車場でひとり歩きする子どもも83人中31人

WHY

### 駐車場の親子連れの行動は?

子ども歩き歩きの幼児や、未就学の児童の場合、交通事故の原因の多くは飛び出しや幼児のひとり歩きが多い(平成12年



観察地点 / 東京都八王子市南大沢 大型施設の駐車場付近  
観察日 / 1月14日(祝日)  
天候 / 晴れ  
観察時間 / 13:10~14:10  
観察者 / 3名

度版ビジュアルデータ 図でみる交通事故統計 より。また、駐車車両への注意が行き届かず事故に遭うケースもある。こうした事故は、一般道路だけでなく、駐車場などでも起きかねない。さらに、時速20km以下の低速域で発生する9歳以下の年少歩行者の死亡事故のうち、加害車両の約3分の1がその親などの縁故者といったデータもある(財)交通安全総合分析センター資料より。

休日の大規模商業施設の駐車場で、親子連れの行動について観察してみた。

### WATCHING

### 「ダメダメ」と駆け出す子どもを慌てて制す母親も

観察場所は東京都八王子市郊外にあるアウトレットショッピングやレストランのある大型商業施設の駐車場。およそ150台の駐車が可能で、観察時間帯にはつねに満車状態であり、1台が出庫すると1台が入庫できるといった具合で、駐車場内を通行するクルマはそれほど多くはない。休日のためか、クルマで来た買い物客

のほとんどが20~30代とみられる親と、幼児や小学生くらいの子ともといった家族連れだった。こうした家族連れを1時間、小学校低学年以下とみられる、83人の子どもを観察したところ、手をつないで歩く親子連れが多い中、31人の子どもがひとり歩きした。

その中には「ダメダメ!」とクルマから先に降りた幼児を親が追いかけてつかまえたり、「回りを見なさい」「早く早く」と注意はするものの、子どもから大きく離れて歩く父親や、携帯電話の画面に見入って下を向きながら親の後ろを歩く女の子や、兄が小さな弟をおんぶして駐車場内でふざけあっていた例があった。また、駐車場内を走行するクルマが少なかつたせいか、駐車場の車道の中央を歩いたり、斜めに歩く親子も目立った。左右の確認を行なう親子の姿はあまり見られなかった。

### PROPOSE

### いつでも子どもを守るよう子どもの手をとって歩こう

駐車場内で交通事故が発生する可能性は少なくない。クルマを発進または後退させるときに、小さな幼児の姿を発見できないことが多いからだ。子どもたちは予想外の行動をとることが多い。親は子どもと手をつなぎ、いつでも子どもを守る状態にするのが最善と思われる。また、この時こそ、子どもたちに安全教育をするよい機会でもある。実際の交通場面で親は子どもの手本になるような行動をしてほしい。

今回の観察では、ドライバーの行動も気になった。子どもたちがクルマの死角部分などにいるかもしれないことを十分予測し、周囲をよく確認するなどしっかりと安全確認を行なってほしい。

子どもを連れて駐車場内を移動する際の親子連れのスタイル (小学校低学年以下とみられる子ども83人中)

